

町並み保存と観光を まち歩きで考える



石川地域づくり協会
コーディネーター
赤須 治郎

ありませんでした。どちらが良いかを比較するつもりはありません。もてなしのスタイルが地域によって違うと解釈しています。

ふれあい重視の愛媛の地域づくり

石川の地域づくりは、どちらかという
と議論好きで「そもそも論」を交わすこ
とがよくあります。愛媛の地域づくり
は、大会実行委員長の若松進一さんの
キャラクターもあるのでしょうか、ユー
モアに富み、参加者を包み込むスタイル
ではないかと感じました。

参考までに述べますが、第21回の石川
大会（H16年開催）では交流プログラム
として前夜祭を用意しました。参加者が
たっぷり話し合えるように、立食テーブ
ルごとに分科会のコーディネーターや
ゲストのパネリストを配し、誰がどの
テーブルに待機しているかを事前にア
ナウンスしました。その効果はきめん
で、前夜祭終了後に二次会に繰り出し、
いろんな地域から参加された方たちの混
成チームで夜遅くまで交流が続きまし
た。

石川の地域づくりは議論好き

愛媛大会が終わってから1ヶ月も経つ
た頃、大会の記録写真をファイルしたC
Dが送られてきました。写真を見て、晴
天に恵まれ、気持ち良く町歩きができた
ことを思い出しました。良い研修が出来
たと思っています。

交流の時間が足りない前夜祭

宇和島には仲間と一緒に車で行きまし
た。金沢を朝7時に出発し、現地に着い
たのが午後5時頃。10時間かけて出向き
ましたが、石川の地域づくりのことを紹
介する時間がほとんどありませんでし
た。

時間がないのは愛媛大会に限ったこと
ではなく、全国大会に参加する度に感じ
ています。参加者の多くは地域や団体を
代表して来ており、活動紹介など、多少
まとまった発言をしなければ、代表とし
ての責任を果たせないと思っっているの

客が来ない大型観光施設

分科会は「まちづくり観光」をテーマ
にした第8分科会（宇和島市津島町）に
参加しました。第3セクターが運営する
大型観光施設と、歴史的
町並みをま
ちづくりに
活用してい
る地域住民
の活動とを
比較しなが
ら、観光によ
る地域づく



広大な南楽園に来場者は我々だけ

りを考えました。

同地区には四国一の日本庭園といわれる南楽園があります。「レクリエーション都市構想」を掲げ、昭和48年から10年がかりで38億円の巨費が投じられて造られたのですが、計画から完成までの10年間で経済情勢は様変わりし、レクリエーションの時代などはないに訪れることもなく、現在は来園者が年間8万人しかない状態です。南楽園の担当者の説明では、なにをやっても来園者が増えないとのこと。私自身も過疎高齢化が進む能登半島で観光による地域振興をお手伝いしており、南楽園の状態はとても他人事とは思えず、計画づくりに携わる者の責任の重さを改めて思い知らされました。地域の失敗例を取って披露された主催者の英断を高く評価したいと思えます。

散策が楽しくなる歴史的町並み

南楽園の重苦しい視察に比べ、岩松の町並み散策は楽しいものでした。津島町岩松地区は岩松川の河口に開けた港町です。近隣で収穫される農作物や海産物の集散地として賑わい、川の左岸に大きな商家や商人宿、造り酒屋などが建ち並び、商店街も形成されました。現在の岩松は人通りも少なく落ち着いています

が、町の骨格がしっかりとっているため、かつてのにぎわいが透けて見えてくるような町並みが残されていました。



落ち着いた暮らしが
伝わる岩松の町屋

魅力的な観光資源

私は古い町屋を見ることが好きですが、それは国宝級の寺院を巡ることとは意味が違います。町屋からはその地域独特の生活が感じられます。私にとって観光とは、非日常に触れることではなく、自分の日常にはない「もうひとつの日常」を知ることです。地域の風土や歴史をふまえ、地域に誇りを持つて生きています



まちづくり拠点の酒蔵で基調講演

人たちと出会うことにより、自分自身をリフレッシュさせることが観光であると考えています。町歩きの後の基調講演で岡田文淑氏は、論語の「近き者悦び遠き者来る」を引用し、観光の基本は「近くの人々（住民）が悦び、遠くの人々はそれを聞いて慕ってやって来るもの」と述べられました。良い言葉を教えていただき、ありがとうございました。

イベントは社会実験

全国大会のような大きなイベントを終えると疲れが出て、活動が停滞することもあります。岩松町並み保存会の皆さんには、この分科会を「まちづくり観光の社会実験」ととらえ、実験結果を確かめ、新たな課題を発見し、次のステップの実験に進まれることを期待しています。



町歩きの途中にお遍路さんとすれ違う